

検証55歳からの性 婚活成功術

「離婚して困窮している女性性は多く、お金のシビアになっています。ひとり親家庭の手当てなど、再婚するとなくなる部分も多いので、仮に前夫からの養育費がなくなっても暮らしていけるライフプランを話すといいでしよう」(勝氏)

「再婚する際に前妻に養育費を払っていることを新妻に承諾してもらっていたはずなんです。彼女との間に子供が生まれてからというもの、なにかと皮肉をいわれるようになりましてね」
「弱り果てた顔の斉藤正さん(51)は、前妻と別れたときの協議で毎月6万円の養育費を払う取り決めになったという。しかし、それは最低限払う範囲、いわば義務的なもので、再婚前には子供の誕生日やクリスマスには贈り物をしていた。しかし、今は養育費だけにとどまっているという。」

養育費も含めた金融計画を

「小学校入学のときにお祝いをしたかったのですが、それを察した妻が、やりくりが大変で子供の七五三の晴れ着も用意できないと愚痴ったんです」と、斉藤さんは寂しげに語る。



「トラブルを回避するために、そうした細々としたことは結婚前に話し合っておくべきでしょう」と、ファイナンシャルプランナーの勝(すけ)桂子氏。顔写真にはアドバイスする。

「実は、斉藤さんには大きな誤算があった。婚活を始めたのは前妻に再婚の噂があったからだった。前妻が新しい家庭を築けば、将来的に養育費

は不要になると思い込んでいたのだ。しかし、そうまい話にはならなかった。」
「前妻が再婚で経済的に恵まれれば、調停により減額が認められるケースもあります。が、前妻が再婚したとしても子供への扶養義務はなくなり

「万が一、夫が亡くなった場合、前妻との子供と新妻で相続を協議することになります。そうしたことを見越して、一度、前妻との



マナーが成婚し、しっかりとしたプランを寄せる

「離婚して困窮している女性性は多く、お金のシビアになっています。ひとり親家庭の手当てなど、再婚するとなくなる部分も多いので、仮に前夫からの養育費がなくなっても暮らしていけるライフプランを話すといいでしよう」(勝氏)

「前妻が再婚で経済的に恵まれれば、調停により減額が認められるケースもあります。が、前妻が再婚したとしても子供への扶養義務はなくなり、将来的に養育費は不要になると思い込んでいたのだ。しかし、そうまい話にはならなかった。」
「前妻が再婚で経済的に恵まれれば、調停により減額が認められるケースもあります。が、前妻が再婚したとしても子供への扶養義務はなくなり、将来的に養育費は不要になると思い込んでいたのだ。しかし、そうまい話にはならなかった。」

テリー伊藤の コラム理の支算用

飯野は傷心の中、なんとか第2志望校ではあったけど、明治学院大学に合格した。この飯野は故手前、青気です。員削減をして、全国模擬試験も廃止するという。このニュースを聞いて、真っ先に思い浮かぶのが、同級生の飯野のお気楽な4年間を送る人も多く、私もどちらかというとそのクチだ。そんな私が言うのもヘンだけど、切ない失恋の人口の減少なんて分析される。その